



往復動圧縮機について、圧縮機の構造、分類法、気体圧縮の基礎理論として気体の状態方程式、圧縮機の仕事と動力、運転管理のポイントを学びます。

特色

- 化学反応を扱う上で必要不可欠な化学反応式から得られる情報と化学平衡について、CGアニメーションや映像でわかりやすく学習できます。
- 反応器を制御するために必要な各種の計算方法を実際の化学反応を例に、具体的に学習できます。

カリキュラム

【1章 化学反応式の見方】	404 反応速度式とは	803 触媒の表面積	1003 反応次数の決定③
101 身近な化学反応	405 反応速度式の決定	804 接触触媒反応の過程	1004 反応次数の決定④
102 化学反応式	406 素反応	805 触媒の劣化	1005 反応温度の算出①
【2章 実際の化学反応】	407 津速段階	806 被毒作用	1006 反応温度の算出②
201 化学反応で扱う量	408 不均一反応と総括反応速度	807 シンタリング	1007 反応温度の算出③
202 化学反応に伴う熱	【5章 反応速度の温度依存性】	808 触媒の機械的破壊	1008 フィード量の算出①
203 可逆反応と不可逆反応	501 アレニウス式	【9章 触媒反応器】	1009 フィード量の算出②
【3章 化学平衡の考え方】	502 平衡理論	901 反応条件と反応器の構造	1010 フィード量の算出③
301 反応はどこまで進むのか	503 活性化錯体理論	902 固定床型反応器①	
302 化学平衡	【6章 反応機構】	903 固定床型反応器②	
303 化学平衡の工業的意味	601 さまざまな反応機構①	904 空間速度	
304 温度変化の化学平衡への影響	602 さまざまな反応機構②	905 触媒層の圧力損失	
305 圧力変化の化学平衡への影響	【7章 触媒のはたらき】	906 流動床型反応器①	
306 クイズ(ル・シャトリエ 原理)	701 触媒の効果①	907 流動床型反応器②	
【4章 反応の速度】	702 触媒の効果②	908 U_{mf} と U_t の算出①	
401 反応はどのように進むのか	703 触媒の化学平衡への影響	909 U_{mf} と U_t の算出②	
402 反応の速度の表し方	704 触媒の選択性	910 U_{mf} と U_t の算出③	
403 いろいろな反応速度	【8章 触媒反応のしくみ】	【10章 反応のまとめ】	
	801 触媒の形状	1001 反応次数の決定①	
	802 化学吸着と物理吸着	1002 反応次数の決定②	

受講対象者

生産現場(工場)の新人・中堅保全員、オペレータ、エンジニア
現場の作業員・監督者・管理者

教材概要

想定学習時間

◆ 6 時間

最短実行時間

◆ 1 1 4 分

教材構成

◆ Webによる教材配信

◆ テスト数 3